

(ホームページ掲載日：令和7年7月17日)

開催日及び場所			令和7年6月13日（金） 横浜植物防疫所会議室		
			嶋矢 剛（公認会計士） 増井 史彰（弁護士）		
審議対象期間			令和6年10月1日～令和7年3月31日		
審議対象案件			38件 うち、1者応札案件13件 		

委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答等
	小型压力容器（オートクレーブ）等点検業務 ・当該２者は、１者応札又は落札率が100%の案件が少ないため、それに該当する契約は事後チェックの主旨で経緯を伺いたい。 ・１者が繁忙期のため参加できず、１者応札になったことについては、もちろん２者の方がよいが、植物防疫所にもスケジュールがあり、他の業者にも繁忙期があると思うので、是々非々でよいと思う。 ・来年以降はまた２者になるという認識でよいか。 ・時期を無理にずらして２者にするのは難しいと思う。 今後、定番の２者以外に他の業者が入札に参加する可能性はあるか。資格の設定等、難しいことを要求しているわけではないが、他の業者に供給能力はなさそうか。 ・応札業者が１者でも増えれば、良いと思う。 分析機器定期点検業務 ・先ほどの２者とは異なるが、それに準じて経緯を伺いたい。 ・なお、今回、愛知と福岡と沖縄の３所在地の案件が比較的多いように見えるが、理由・事情があれば、ご説明いただきたい（例えば、経年で更新時期が集中している、等） ・落札業者の概要を簡単に説明してほしい。 ・辞退した業者が対応できない分析機器があるとのことだが、落札業者はどの機械にも対応できる業者なのか。 ・多くの実験機器・分析機器を点検できるのは、２者しかいないという認識でよいか。 ・点検業務を二つに分けて実施する方法もあるが流石に手間がかかるので、今回の処理で問題ないと考ええる。 ・元々複数応札者のいる案件が、今回は１者応札となった経緯について承知した。１者応札となり、落札率が100%になると、競争原理が働いていないと見受けられてしまう。 次回以降、今回のように他業者に対応できなかった機種がなければ、３者から見積りを取る必要がある。 また、今回は予定価格を決定する際に、落札業者の参考見積額を参照しているが、次回は他の業者を使う工夫をしてほしい。 ・見積と入札価格について、負担がない範囲で工夫できることを検討してほしい。 ミカンコミバエ防除用単剤誘殺板購入 ・１者応札で落札率が100%だったため本件を抽出した。 令和３年、令和５年の契約実績及び今回入札説明書を取りに来た業者が１者のみという状況だが、入札説明書を取りに来る業者が１者しかいない要因について、担当者の私見で構わないので教えてほしい。 ・ミカンコミバエ防除用単剤誘殺板について、同じ効果を持つ代替品はないのか。 ・海外からの輸入は難しいか。	・入札等説明書の受領は２者だったが、結果的に１者応札となった。 入札後、不参加だった１者に理由を確認したところ、入札の公示である時期が繁忙期で多忙な状況のため、入札に参加できなかったと回答があった。 ・令和７年度の点検では、時期を考えながら公告することで、対応していきたいと考えている。 ・時期を検討して、少なくとも２者入れるようにしたい。 ・入札説明書も取りに来ていただけない状況。 過去、令和３年に３者が入札等説明書を取りに来たが、結果的に入札は２者。その際に初めて来た業者からは、仕様書を見て参加できないと回答をもらったところ。 ・前年度から入札公告の内容は変えていないが、毎年、使用頻度の高い分析機器を取りまとめて点検しているため、点検する機種が毎年変わる。前年度以前は、点検に対応できる会社が２者、３者いたが、今回は毎年入札に参加しているもう１者の業者に対応できない機種があったため、当該業者が入札を辞退し１者応札となった。 ・実験器具を取り扱っており、当所で購入等の実績もある。 また、取り扱っている実験器具の点検修理も行っている会社である。 ・基本的にとどの機械にも対応できる業者。 今回辞退した業者も、基本的には幅広く対応できる業者だが、今回は対応できない機器が数点あり、辞退したところ。 ・もう１者対応可能と想定できる業者があるが、電話で確認したところ対応できない機器があると断られた。 ・特殊な薬剤で製造元が限られること、他の業者は沖縄向けに製造しており他地域までの生産能力がないことが、同社以外の業者が対応してくれない要因として考えられる。 ・フェロモントラップに使用する当該薬剤は落札業者しか製造しておらず、当該薬剤を使用した防除の方法が確立されているため代用は難しい。 ・承知していない。

委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答等
	・1者応札で100%になった要因は、値段の問題ではなく供給能力の問題という認識でよい。 ・過去3年1者応札が続いているが、初めの頃に他の業者に参加してもらうため、何らかの対応をしたか。 ・落札業者にしか作れない薬剤であれば、入札の方法を工夫しても難しいと思い、状況を確認したかった次第。次のタイミングで報告してもらえればと思う。 ・実績額について、令和3年が約400万円、令和5年が約1,200万円、今回が約1,700万円と増額しているが、その理由について教えてほしい。 ・一定数必ず消費されて、発注されるのであれば、場合によっては他の業者が参加する可能性もあるが、ミカンコミバエが発生しない場合には発注しない以上、金額的には業者にとって魅力的な案件だが、他の業者が経営資源を引き当てて本案件の発注に備えるのは難しいと思った。 グアニジンチオシアン酸塩外37点売買契約 ・過去、3年連続で同一の会社が落札しているが、今回は別の1者のみ入札に参加し、1者応札かつ落札率100%になったという認識でよい。 ・入札説明書の受領業者のうち、過去の落札業者が入札に参加しなかった理由を教えてください。 ・営利企業なので、他の案件を優先するのは仕方がないことだと思う。 ・過去に購入している抗血清と、今回の契約で業者が落札したグアニジンチオシアン酸塩は異なる薬品か。 ・今回の落札業者は去年から本案件に参加している業者か。 ・先ほどの2者が本試薬の発注に対応する能力がある業者という認識でよい。 ・次回以降は、過去の落札業者にも入札に参加してもらえるようにしてほしい。 今回は落札業者の見積をもとに予定価格を積算しているが、過去の落札業者に見積を取らなかった理由を教えてください。 ・そもそも過去の落札業者には本案件に対する意欲がなく、入札に参加した見積の金額のとおり落札されたということか。 ・競争の前段階で、予定価格の金額は重要なので、できればもう1者にも参考見積を提出していただきたいところ。 ・業者に協力してもらうことの重要性・困難さを認識できた。 ・1回で見込どおりに入札を行うのは困難ではあるため、業者とのコミュニケーション等については、今回報告のあった対応を含めて、引き続きご対応いただきたい。	・然り。 ・承知していない。 ・ミカンコミバエの発生状況に起因して、実績額に差が生じている。 誘殺板はミカンコミバエが発生した際に使用し、発生しなければ備蓄しているが、令和6年度は年度当初にミカンコミバエが発生し、備蓄の7割、8割を使用してしまったため、次回発生した際にすぐ対応できるよう、備蓄用として大量に購入したため増額した。 ・然り。 入札説明書の受領業者は今回の落札業者と過去の落札業者の2者。 ・他の案件があり、対応が困難なため、入札に参加しなかった。 ・抗血清とグアニジンチオシアン酸塩は異なる薬品である。 抗血清は毎年購入しており、令和6年度は毎年購入している抗血清に加え、グアニジンチオシアン酸塩の購入を一つの案件としてまとめた。 本案件は、毎年金額に応じて入札や見積合わせをしているが、令和6年度は入札を要する金額となったため、入札にした。 ・試薬の入札の実例はないが、過去見積合わせには参加している企業。 ・然り。 ・入札に参加する予定がなかったため、参考見積も提出していただけなかった。 ・基本的に、入札説明書を取りに来た業者には参考見積を依頼している。 過去の落札業者は入札説明書を取りに来た時点で多忙のため、参考見積を提出していただかず、入札にも参加していない状況。 ・最近では、参考見積を提出しない業者が増えている状況。 ・今回の落札業者は前回の入札から参加しており、過去の落札業者にも入札に参加してもらえれば2者となったが、今回は不参加のため1者応札となった。

委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回答等
	オートクレープほか定期点検等業務 ・100万円台だった過去の実績と比較して、令和6年度は約380万円まで増額しているが、その理由をご教示いただきたい。 ・定期点検の周期により、点検の必要数が毎年増減するという認識でよいか。 ・過去の類似案件も含めて、定番の2者のみが入札に参加しており、落札率も高いため、競争していないように見受けられる。 他に本案件に対する供給能力を持つ業者はいないのか。 ・毎年同じ業者で落札率が高いため、外形的には競争がないように見えてしまうが、他の業者に供給能力がないのであれば、競争しようがないので仕方がない。 もし、他の業者が見つければ、取り込む努力をしてほしい。 ・本案件を継続的に監視していきたい。 遺伝子増幅装置ほか定期点検等業務 ・過去実績は2者だが、今回は1者。 これまで委員として2者から3者に増えればよいと伝えていたが、1者になってしまった。 案件自体としては、6-⑥の誘殺板購入の案件とは異なり、競争入札に沿うはずの案件だが、1者しか入札に参加しないのは残念。 入札の内容に問題はないが、今回の説明を受けて、多忙により入札への参加を断られるという課題を認識した。 ・本案件を供給できるのは定番の2者しかいないという認識でよいか。 ・毎年同じ業者が入札に参加し、落札率が高い状況が続くより、新たな業者が入札に参加し、落札率が落ちる方が競争の観点から望ましい。 困難なことは承知しているが、競争原理が働くよう目指してほしい。 ・民間企業のエレベーターの点検では、近年メーカーの代理店以外の業者も点検するようになり、当初見積額の半額になる等、競争原理が働いている状況。 エレベーターと遺伝子増幅装置のような精密機器では状況が異なると思うが、中長期的には、本案件にも何らかの競争が働くことに期待したい。 引き続き、他の業者が参入できるような仕組みづくりを継続してほしい。 リアルタイムPCR装置の購入 ・リアルタイムPCR装置について、簡単に説明してほしい。 ・今回3台購入しているが、3台購入した理由についてご教示いただきたい。既にある機器の更新なのか、それとも拠点の増加に伴う新規購入なのか。 ・3台で足りるのか。 ・予算等の兼ね合いで今回は3台更新したということか。承知した。 ・これまでの案件と同様、リアルタイムPCR装置も、定番の2者でなければ供給できないのか。 ・委員の立場としては、参加業者数を増やしてほしいと思っているが、各社繁忙期や固定客からの発注がある中で、本案件のようにスポットで（突発的に）発生する発注に対応してもらえるように調整することが困難なことは承知している。プロセスを把握するために、確認を行った。	・6年度のオートクレープ外の点検数が増加したため。 ・然り。 ・2者ともに代理店であり、代理店がメーカーに点検を依頼することになる。当所が機器を購入した業者が本案件の入札に参加してくるため、新たな業者が参加しない。 ・基本的には、メーカーの代理店であり、機器を取り扱う業者が点検を実施するため、現時点で当所に多くの機器を入れている2者以外が入札に参加するのは難しいが工夫していく。 ・新型コロナウイルスのPCR検査と同様に、PCRの検査手法により植物の反応を確認し、病気の種別を判断するために用いる機械。 植物のウイルスを検出し、どのような病気に該当するか判別するための装置。視認できない症状を機械により判別している。 ・更新である。 ・つくば、伊川谷、門司のリアルタイムPCR装置のうち、利用頻度の高いものを更新した。 ・然り。 ・他者の参入は可能であるが、過去の取引実績から他者の参入がなかったと思慮する。

